事例No.	288
公表年度	H28
団体の属性	指定都市
団体名	神奈川県横浜市

事例区分	公営企業

タグ	・電気事業 ・新たな政策手法の確立・活用 ・歳入確保

事例種類	その他

事例内容・タイトル

「横浜市における風力発電の取組」

出典

地方公営企業の抜本的な改革等に係る先進・優良事例集

○ 事例名等

事例名	横浜市における風力発電の取組
団体名	横浜市
事業名（事業区分）	電気事業（風力発電事業）

○団体及び事業の概要

行政区域内人口（人）	3,724,695	行政区域内面積（㎢）	437.49
事業開始年月日	平成19年	発電形式	風力発電
発電所数	1	最大出力（kW）	1,980
年間発電電力量（MWh）	2,200.0	職員数（人）	2
年間電灯電力料収入（千円）	25,987		

※表中の計数はH28年３月末時点

1．取組の背景、検討を開始した契機・導入過程

（1）取組の背景
平成19年度に職員提案により開始した事業で、再生可能エネルギーの利用促進や温暖化対策の一環として、市民一人ひとりが具体的行動を起こすきっかけとすることを目的とする。
一般的に、周辺に建物等の少ない郊外などに設置されることが多い風車であるが、横浜の風車はより多くの人々に風力発電を目にしてもらうのに適した場所として、数多くの人々が訪れるみなとみらい地区などに隣接した場所に建設している。

（2）検討を開始した契機・導入過程
大型風力発電所ハマウィングを擁する横浜市風力発電事業は、職員提案事業(旧:アントレプレナーシップ事業)のひとつとして、平成15年度に事業化の検討が開始された。
その後、風況調査や機種選定を経て、ハマウィングを支援するY(ヨコハマ)-グリーンパートナー(協賛企業)の決定、横浜市で初めてとなる事業を特定した住民参加型市場公募債である「ハマ債風車(かざぐるま)」の発行等により、平成18年3月に竣工、翌平成19年4月から売電を開始した。

2．取組の具体的内容とねらい、効果

（1）取組の具体的内容とねらい
本事業は次の大きな2つの特徴を持ち、この仕組みにより市民・企業と協働で事業を進めている。
1　住民参加型市場公募債「ハマ債風車(かざぐるま)」の発行による市民参加
（平成28年度に市債償還を完了する。）
2　「Y(ヨコハマ)-グリーンパートナー」企業による事業協賛
建設費を市債の発行と補助金によって賄い、運営費には本事業の趣旨に賛同する協賛企業「Y（ヨコハマ）-グリーンパートナー」からの協賛金と売電収入を充て、協賛企業にはグリーン電力証書を発行している。

（2）効果
事業開始以来、見学者数、発電量及び売電収入は順調に推移し、横浜の環境行動のシンボルとしての役割を果たしている。
当発電所「ハマウィング」は、平成24年11月に再生可能エネルギー発電設備の認定を受け、売電量45口のうちの企業協賛のない部分については、固定価格買取対象となった。これにより、財源の確保や再生可能エネルギー設備としての新たな利活用の可能性を検討する道が開けたものと考えている。

3. 他の自治体の参考となる点、今後の課題等

(1)他の自治体の参考となると考えられる点
　市税に依存しない事業のしくみ(建設:補助金と風車建設を目的とした市債発行、運営:売電収入及び協賛企業からの協賛金)

(2)今後の課題等
　風車設置から10年が経過し、市債の償還は完了したが今後は経年劣化による設備の補修に多額の費用が見込まれ、将来に向けた計画的な資金確保が必要。

〇問合せ先

担当課	横浜市環境創造局環境エネルギー課		
TEL	045-671-2490	MAIL	ks-wind@city.yokohama.jp